

地域と共生するFFG

長崎県美術館

過去・現在・未来を繋ぐ場所

(公益財団法人 長崎ミュージアム振興財団)

館長 こ さか さと こ 小坂 智子 氏

取引店：十八親和銀行 県庁支店

Profile: 東京生まれ。慶應義塾大学文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。シドニー大学大学院文学部芸術学専攻修士課程修了。石橋財団ブリダストン美術館、慶應義塾大学アート・センター、長崎国際大学、佐賀大学芸術地域デザイン学部長勤務を経て現職。報告書に「ダークツーリズムの現状と展開に関する研究」、「日本の『近代美術館』草創期の思想を聞く」(共著)などがある。

長崎ゆかりの美術とスペイン美術が2大コレクション

地域の美術品を収集、調査、展示して、未来へと伝える

2020年4月、長崎県美術館の新館長として就任した小坂智子氏。館長就任は小坂氏で3人目。女性は初めてとなる。コロナ禍を経て2025年に20周年を迎える長崎県美術館をどうディレクションしていくのか。小坂館長にインタビューを行った。

長崎港や長崎水辺の森公園に隣接 自然と調和したモダンな美術館

当館は長崎水辺の森公園の一角にあり、世界的な建築家・隈研吾くまけんごがデザインしたモダンな建物は数々の建築賞を受賞しています。収蔵作品の大きな柱は、長崎ゆかりの美術とスペイン美術です。スペイン美術は第二次世界大戦中、

1941年から5年間、特命全権公使としてスペインに赴任していた須磨彌吉郎すまやきちろうが主にマドリッドにおいて蒐集した「須磨コレクション」を核としています。1970年に須磨の意志によつて78点の作品が長崎県に寄贈されたことを始まりに、その後もスペイン美術の受贈と購入を重ね、現在ではゴヤ、ピカソ、ダリをはじめとするスペイン美術コレクションが形成されています。

当館の特徴は県の直営ではなく指定管理者制度を採用し、公益財団法人長崎ミュージアム振興財団が運営にあたっているということです。指定管理者制度のメリットは、効果的で効率的な管理運営にあります。具体的には、集客力のある企画や長崎ならではの展示等、

バラエティに富んだ展示会を開催できるという点です。「イスラエル博物館所蔵ピカソーひらめきの原点」「スタジオ設立30周年記念ピカサー展」「荒木飛呂彦あらきひろひこ原画展 J〇J〇

冒険の波

紋」など、大都市しか巡回しないような企画展を九州では当館のみが開催しています。こうした企画展は今後もコンスタントに開催してまいります。



常設展示室(スペイン美術)の見学風景



松尾支店長(十八親和銀行)

コロナ禍と重なった館長就任 美術館の在り方を考える

ここで私のことを少しお話ししますと、東京生まれ東京育ち、2000年に長崎県佐世保市の長崎国際大学の教員になり、初めて長崎県にまいりました。もともと美術館勤務や大学で美術史を教えていた関係で、長崎県美術館ができる前の「長崎県新美術館基本構想専門家会議」のメンバーになり、外部から当館に関わっていました。館長としては3年目ですが、関わってきた年数は一番長いかもしれません(笑)。



1



2



3

館長に就任して間もなく、新型コロナウイルス

感染症拡大防止のため約1カ月半臨時休館しました。その後も開館時間短縮、展覧会や事業の規模縮小・中止を余儀なくされました。コロナ禍は計画していたことが計画通りにできない

もどかしさがありました。美術館の在り方を立ち止まって考える良い機会にもなりました。最近になって、ようやくいろいろなことが動き

出しました。一度途絶えた人の流れを再びもとに戻すのは容易なことではありませんが、アトから遠ざかっていた方々も少しずつ元の生活を取り戻していただければと思っています。

長崎県に住むすべての人に 生涯学習の場を提供する

長崎県ならではの生涯学習事業として「移動美術館」があります。長崎県は離島が多く、地理的な条件から、気軽に美術館を訪れ収蔵作品を鑑賞することが難しい地域があります。そこで、希望する県内市町との共催により、当館の収蔵作品の中から20〜40点の作品を選んで展示する展覧会を年間2会場を選定して開催し、開催地や周辺市町の地域住民の方々に芸術鑑賞の場をご提供しています。



小坂館長

実は当館ができる前から長崎県で独自に行っている事業で、県の美術館としての使命であると位置づけています。

2021年度より当館所蔵作品を活用した「平和教育×鑑賞教育」プログラムの開発に取り組んでいます。収蔵作品の中には、戦争の悲惨さ、平和に対するメッセージがこめられた写真や絵画、彫刻作品が数多くあります。本物の作品の前に、対話型鑑賞を取り入れた新しいスクールプログラムです。

また、「はつとミュージアムクーポン」という企画では、長崎県内の不登校児童・生徒と



4



5

1.美術館は運河を挟み、西側と東側二つの棟で構成される／2.波佐見焼の陶板を用いた壁面は、間接照明があたり柔らかな光を演出／3.常設展示室(長崎ゆかりの美術)の見学風景／4.「平和教育×鑑賞教育」プログラム。写真は小学校で実際に授業を行った様子／5.幼稚園・保育園の子どもたちに親しみやすいよう、作品鑑賞と表現活動を組み合わせたスクールプログラムもある／6.GWの親子イベント「春のぼかばか美術館」で行われた「ながさきのくしゃくしゃおばけ」



6

企業とのコラボレーション 大学・医療機関とも連携

保護者、関係者に美術館での作品鑑賞のほか、ミュージアムカフェでの軽食またはショップでの飲食物購入ができるクーポンを提供しています。学校単位ではなく個人に目配りすることも大事なことだと思っています。

企業とのコラボレーションについては、過去に

「AIGコレクション」「親和銀行コレクション」

「十八銀行コレクション」など、企業の所蔵品を

公開する展示を行っています。また、2024年1月8日(月・祝)まで企画展「浪漫的の光芒―永見徳太郎と長崎の近代」を開催中です。長崎有数の資産家として「銅座の殿様」とよばれた永見徳太郎ですが、大叔父は国立第十八銀行の初代頭取、自身も監査役を務めるなど、十八親和銀行に関わりが深い人物です。今後こうした長崎ゆかりの企画展は継続してまいります。

当館の活動を応援したい企業向けに「ミュージアムパートナーズ(賛助会員)」

(年会費・1口5万円)というプランがあり、

現在79社100口の企業が申し込まれています。会員になられると館内とホームページ、アートビジョンで企業名を掲出します。館主催企画展チケットも1口50枚お渡ししていますので福利厚生や営業ツールにもお使いいただけます。

ゴールデンウィークでは、アートに触れながら親子で楽しめるイベント「春のぼかぼか美術館」を開催しました。イベントでは、新聞紙を巻きつけたターザンロープにぶら下がったり、新聞紙をちぎったりして遊ぶ「ながさきのくしゃくしゃおぼけ」や、直径5mのパエリア鍋に見立てた遊具でムール貝やトマトの恰好になって遊ぶ「パエリアの具になる!」など、子どもたちに大好評でした。

また、他領域との連携も深めていきたいと考えています。7月には初の試みとして、医療従事者向けのセミナー「白衣の中に、アートの心。」を企画しました。アート鑑賞が医療現場にどう活用できるかについて理解を深めていただきました。

今後はコロナ禍で中止を余儀なくされていた関係各所との連携を復活させ、企業はもと

より、医療機関、大学等と協調していけたらと思います。

美術館の根幹は収蔵作品 土台を固め20周年を迎える

2025年、当館は20周年を迎えます。長崎県にとっても2025年は、被爆80周年、長崎歴史文化博物館開館20周年、長崎空港開港50周年、中華人民共和国駐長崎総領事館開設40周年、第40回国民文化祭開催など、長崎県の文化振興、平和推進、国際交流において大きな節目の年となります。

今、20周年に向けて企画を考えている最中ですが、20年の土台があるからこそ、次の20年を考えることができるのだと思います。文化はすぐには芽吹きません。種まきし続けることが大事です。保育園や幼稚園のスクールプログラムで当館に来た子どもたちが、今、大学生になって再び足を運んでくれています。当館の常連さんで、小さい頃から美術館に親しんでいるお子さんがいますが、学芸員のギャラリートークに大人に交じって参加し、真剣に

聞いて自分の意見をきちんと話します。豊かな感性や表現する力をもった子どもたちがきちんと育っているのは当館の誇るべきことだと思います。

美術館の根幹に収蔵作品があります。作品を収集し、調査・研究を行いその成果を展示することで好循環が生まれます。今年度開催したコレクション展で「新収蔵―池野清と池野巖いわお」があります。昭和の長崎で活動した洋画家・池野清と池野巖の兄弟で、彼らはともに被爆者であり、中央画壇の潮流からは距離を置きながら作品を制作しました。現存作品が極めて少ない作家で、最初は小さな展覧会から始まりました。調査・研究を続けていく中で作家や作品についての情報を得たり、個人の方から寄贈を受けて、今回のような展示に繋げることができました。

当館は長崎市出島にあります。かつて出島は新しいものが入ってくる場所でした。当館は令和の「出島」の役割を担い、この場所から芸術文化を発信していきたいと思っています。



屋上庭園にて。前列左2人目から村上総括マネージャー、小坂館長、松尾支店長(十八親和銀行)、松田サブマネージャー

長崎県美術館

- 所在地：長崎市出島町2番1号
- 電話番号：095-833-2110
- 開館時間：10:00～20:00
- 休館日：毎月第2・第4月曜日(休祝日の場合は翌火曜日)、年末年始
- 入館料：無料
- 観覧料：コレクション展 一般420円 ※企画展は展覧会によって料金が異なります
- アクセス：路面電車▶「出島」電停より徒歩3分
「メディカルセンター」電停より徒歩2分
バス▶「新地中華街」バス停下車徒歩5分
「長崎県美術館」バス停下車(土日祝)
JR▶「長崎駅」より徒歩15分
車 ▶長崎自動車道・長崎ICよりながさき出島道路経由5分

H P



X(旧Twitter)



Instagram



浪漫

の A Romantic Shaft of Light

光芒

永見徳太郎

と Nagami Tokutaro and
Modern Nagasaki

長崎の近代



満谷国四郎《長崎の人》(部分) 1916年、油彩・カンヴァス、倉敷市立美術館
(永見旧蔵品)

観覧料＝一般1200(1000)円

大学生・70歳以上1000(800)円

高校生以下無料

※(内は前売りおよび15名以上の団体料金)

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、障害福祉サービス受給者証、地域相談支援受給者証、特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)医療受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証の提示者および介護者1名は5割減額

※前売券の販売は、10月13日(金)まで

※会期中本展観覧券でコレクション展にも入場できます。

※会期中本展観覧券の半券提示で前売り料金にて入場できます。

会期中一部作品資料の展示替えがあります。

前期 10月14日(土)～11月5日(日)

中期 11月7日(火)～11月26日(日)

後期 11月28日(火)～2024年1月8日(月・祝)

【お問い合わせ】

長崎県美術館

長崎県長崎市出島町2番1号

Tel: 095-836-2110

www.nagasaki-museum.jp

最新の開催状況及び注意事項は、
長崎県美術館ウェブサイト
またはお電話にてご確認ください。



最新情報は
こちら！

長崎県美術館

2023年

企画展示室

10月14日(土)

2024年

1月8日(月・祝)